グループホームすみか

（別紙の２）

自己評価及び外部評価票

（セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。）

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入）	外部評価（評価機関記入）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念を常に目にとまるところに貼り、職員と情報を共有し対応しているが介護観に対する相違があるのが現状。	コロナ禍があり、入所者の重度化が進みホームが特養化した介護になっていたが、グループホーム理念を振り返りつつ機能の改善に努めた。職員の介護観もグループホームのケアに戻って来ている。利用者の入れ替わりも影響している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナの影響で交流の機会が減少したが、今年から状況をみながら少しずつ地域の行事へ参加している。	認知症を理解し利用者の想いを共有することで拘束の必要性はみられないが、緊急やむを得ない場合は具体的に検討し家族の承諾を得ている。また法人でも定期的にリスク委員会で虐待防止についての話し合い、学習の機会が設けられている。	ボランティアの方に積極的に来ていただいて利用者との交流の場を作っていくことで生活に活気が出てくると思われます。計画を進めていくことを希望します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	以前は人形出前講座の講演など積極的に行っていたがコロナの影響で減少。学生の研修の受け入れは再開した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。	重要な会議だと認識しているが、委員の都合などで出席率が悪いことが気になる。開催案内の方法や会議の持ち方を今後工夫していきたい。	今年開催した。運営推進会議の出席率は低く、ホームとしても問題としてとらえている。今後消防団なども加わってもらったり、自治体の協力も仰いでゆく。又ホームのイベントの機会に家族などの参加もお願いして、課題の解決に向けていきたいという聞き取りをした。	いろいろな立場の方に広く意見を聞いたり、現在のグループホームを知っていただくいい機会ですので、メンバーの検討をして参加者を増やしていけるよう計画していただく事を希望します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	今年度は派遣相談員の受け入れで連携をとる機会が増えている。地域包括の職員が運営推進会議の委員に加わっているので積極的に情報交換を行うことができている。	松本市からの派遣相談員(介護相談員)が月１回来所して、利用者や管理者と面談している。 地域包括支援センターの職員は運営推進会議のメンバーでもあり絶えず連絡を取り合って相談させてもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	認知症を理解し利用者の想いを共有することで拘束の必要性はみられないが、緊急やむを得ない場合は具体的に検討し家族の承諾を得ている。また法人でも定期的にリスク委員会で虐待防止についての話し合い、学習の機会が設けられている。	法人本部が主体となってリスク委員会で身体拘束や虐待について話し合いがなされている。委員会で話し合われたことは伝達研修として部署ごとに研修している。実際にはセンサーマットの使用をした。拘束などの承諾書はないが家族に理解を得て支援記録に記載している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	傾聴の中断、強い口調がみられることは否定できない。職員の体調管理、休日の確保を常に意識している。職員の疲労を溜めないことが最も重要と考えている。		

グループホームすみか

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入）	外部評価（評価機関記入）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	入居の時点で成年後見人を利用されている方が現在2名いらっしゃる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている。	入居してから追加で説明している部分も多々ある。見学に見える時から誤解のない説明を心掛けているが、グループホームのあり方自体を見直す時期がきていると感じる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族の希望は極力取り入れ、相談しやすい関係作りを意識しているが、管理者を含めたスタッフの入替が多かったため不安がある。	来所家族には必ず意見を聞いている。(比較的来所家族は多い)特にアンケートのようなものはとっていないが、月に1回は請求、領収の通知を送るので意見をもらう機会にしている。又すみか通信は2か月に1回の割合で送信している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の職員会議の実施の際、理事長にも参加を促しできる限り出席していただくことで具体的な解決案が導けるように工夫している。職員会議の時間が長くなってしまうのが課題である。	月1回職員会議を開いて、意見を聞く機会を作っている。大体夕方6時から2時間ぐらいの会議を開催している。会議時間が長くなりがちなのが問題でもあるが今後はズームでの参加、開催方法を検討したいとの事である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境･条件の整備に努めている。	研修へ参加することで職員が向上心をもって働くきっかけになっているかと思われるが、人手不足による職場環境は早急に改善する必要がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内研修へ管理者、副管理者の参加。法人外への研修にも参加し学習の機会を設ける努力をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑ連絡会主催の研修への参加を通して他事業所と意見交換、学習をする機会を得ることができている。		

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入） 実践状況	外部評価（評価機関記入） 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	相談から利用に至るまでに本人、家族と面談し、希望や不安な事を聞き出しできる限り本人の意向に添えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	相談から利用に至るまでに家族が困っている事、不安な事、要望をじっくり伺いそれらが解消できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族が必要としているサービスを見極めよく話し合い対応している。必要時は他施設への移動の支援もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	体操やドライブを楽しみ誕生日会や行事を一緒に行い共に楽しんでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	定期的に家族に連絡し日頃の生活状況を伝えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	今まで住んでいた地域をドライブしたり、地域のふくし広場や利用されていたデイサービスへも出向き馴染みの方との時間を楽しんでいただく機会を設けている。	利用者の自宅の近くまでドライブして畑の様子を見たり、以前行っていたデイサービスのなじみの人に会いに行ったり、支援している。友達関係はあまり来ないが、近くの親戚の方が訪ねてくることはある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合う仲間の関係、楽しく過ごせる仲間の関係を大切にしている。 常に座席の配慮と評価に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入） 実践状況	外部評価（評価機関記入） 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。			
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや暮らしの希望に関心を持ち、ケアプランに反映するように努めている。 常に本人を中心に置きケース検討しながら意思統一をしている。	現在意思表示のできない人はいないので本人からの聞き取りを重視して、記録に残したり、アセスメント票に記載してケアプランに反映している。自分のことは自分でやりたいという人が多く、意思を尊重して対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時にこれまでの暮し方や生活歴等、本人・家族・ケアマネージャーから聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一日の過ごし方や心身状態を把握し介護記録に記入している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族の希望に添うよう職員間で常に話し合いを持ち、ケアプランに反映している。 定期的な担当者会議の開催している。	職員会議で必ずアセスメントをしている。 個々の利用者についての担当者会議も、家族をできるだけ入れて開催している。各会議時に出た急を要するものについては赤ペンで記載して夜勤、日勤間で情報の伝達をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日常の記録をもとに情報を共有し介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	家族の状況を把握し、通院の付き添いや薬の依頼、受け取り等支援している。		

グループホームすみか

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入） 実践状況	外部評価（評価機関記入） 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域のボランティアさんとの方との交流や、ふくし広場、音楽会への参加、消防署から指導を受け消防訓練を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	毎月訪問診療して頂き適切な医療、服薬ができるよう支援している。	基本的に近隣の医師が月1回訪問診療をしている。緊急性を要するときは緊急往診が可能である。精神科については近隣の専門医師の月2回往診があり、、訪問看護師との連携がしっかり取れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	定期的に訪問看護に入ってもらい全員の体調を把握して頂いている。 連絡も密にとる事ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、医療機関･訪問看護との情報交換を大事にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人･家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時から重度化した時の対応を確認し、早い時期から家族･訪問看護とターミナルケアについて相談をしている。	重度化した時の意向調査は、入所時に行っている。重度化した時の確認書についてはとっていないが、今後レ点式のチェックリストを作って記録の保管をしたいと考えている。	利用者、家族も、気持ちの変化は考えられるので、変化のあった時々に確認書類を取り交わしておくことを希望します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急連絡網、緊急対応マニュアルを作成し整備をしている。 緊急時は訪問看護が対応しているので対応できているが介護職員への訓練は現在行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の訓練を行っており、明科消防署の指導を受けている。 コロナを機に地域との訓練は行うことができていない。	法人としてのBCPは作ってある。近くの障害者施設と協定して避難場所として開放してもらえる。11月下旬に消防署に来てもらって講演会と避難訓練を火災を想定して行った。10時間稼働する発電機があり、備品は3日分用意してある。	過疎地域としての防災対策と、災害時の応援についてしっかりしたシミュレーションが必要と思われます。夜間も含めて定期の訓練を必ず実施されることを希望します。

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入） 実践状況	外部評価（評価機関記入） 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	家族のような関係でも尊厳を大切にし、話し方や対応に十分配慮している。 春には法人全体で言葉遣いや接遇についての研修が行なわれた。	地域の言葉で話すのも親近感を持ち、コミュニケーションをとるのに重要と考えている。その中でも尊厳のある言葉遣いについては、法人全体で研修を行っている。なんでもありではなくその時々の対応に注意を払っていることがわかる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	思いや希望をそのまま表現できない方もいらっしゃるので、声掛けや傾聴、日頃からの会話を通して思いや希望が知れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	介護度が高くなると希望に沿うことが難しいが自立度の高い方についてはご本人のやりたいことや行きたい場所を聞きながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ブラシで髪をとかしたり髭剃りをして身だしなみを整えている。 同じ衣類の着回しにならないよう心掛けているが職員主導で選択している傾向がある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事を楽しみにされているご利用者が多い。 出来る方にはテーブル拭き、お茶の準備、箸や食事の配膳等を一緒に行っている。	食事は3人の調理専門の職員がローテーションで行っている。手作りの良さがあり利用者は楽しそうに食事をしている。決まった献立に従うというよりはあるもの利用の家庭的な手作り感にあふれている。利用者の中には配膳を行っている人もあり和やかに会食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎回の食事量や水分の記入、栄養バランスを考慮して食事を提供している。 また月1回の体重測定、皮膚状態、排泄等観察しながら評価している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後　職員の誘導により口腔ケアを実施している。 基本的にご自分で行っていただいているが、介護度の高い方については介助させて頂いている。		

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入） 実践状況	外部評価（評価機関記入） 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄表を活用しながら排泄パターンを理解し時間誘導することで排泄の失敗やおむつの使用を減らすよう支援している。ご自分でトイレに行かれない方についてもリハビリも兼ね、トイレまで歩行しトイレで排泄を促している。	現在はリハビリパンツとパット使用、布パンツ使用の利用者のみで、おむつは使用していない。排泄パターンを確認して全員トイレ誘導している。手すりを全部のトイレに付け、廊下も手すりが設置されている。夜間はポータブル使用者もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	身体を動かす、水分摂取を意識しつつ定期的な排便ができるよう常に訪問看護・主治医と連携をとっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	計画的な入浴により一人一人に十分な時間をかけることができている。個別ケアの時間にもなるので傾聴や困りごとの聞き出しの時間としても有意義な入浴ができているかと思われる。	大体週平均2回の入浴をしもらっている。曜日で振り分けて入浴してもらっているが、適当に融通して楽しく入浴できるよう配慮がされている。入浴拒否者についても上手に誘導している。極度に嫌がる利用者は現在はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	良質な入眠ができるよう、日中の活動量や夕方からの過ごし方を意識している。 休息時間は自由に過ごして頂くことでリラックスして頂くことができている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	この薬が本人にとって必要なものかを訪問看護師を中心に議論している。 薬による影響を観察しながら薬に頼らない介護を実践するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	これまでテレビのない生活を送ってきたが、ご利用者様の意見、運営推進会議での検討会等繰り返し話し合いをしテレビを導入する運びになった。テレビに介護をしてもらうことなく時間を決めて楽しむことができている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	家族や後見人の協力を得ながら自由に外出を楽しむ機会を設けている。施設としても、四賀地区外へのドライブを行ったりご本人の希望を確認し職員・家族で共有しながら実施している。	家族や後見人などが、外出を支援してくれたり、施設としては季節ごとにドライブに連れ出して楽しんでもらっている。陽気がよくなったら、積極的に散歩を楽しむよう支援していく予定である。地区の行事にも参加できるよう支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入）	外部評価（評価機関記入）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	9名中、7名がお金の管理を行っていない。個人でお金を所持されている方も執着はなく、特に使用する機会を設けるような支援はできていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	必要に応じて電話をかけることはしているが、手紙は書くような機会を設けるようなことはできていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホールに季節のデコレーションを飾ったり、トイレの衛生にも気を配るようにしている。また利用者の混乱を招かないよう洗面台に鏡を設置しないスタイルを継続している。	ホールは季節感が出るようデコレーションして、草花を設置している。テレビを入れたことにより団らんの幅が広がり、話題が広がっている。入居前と変わらない生活ができている。テレビでカラオケをしたり、相撲観戦で盛り上がったりしている。穏やかに楽しく過ごしている様子がうかがえる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食事やティータイムの席は常にベストな席かを職員間で検討している。また離れたソファーでもゆっくりできるような配置にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族と相談しながら馴染みの物を居室に置くことで安心して過ごせる居室作りを行っている。必要に応じて居室の移動も行っている。	自室については好きなように使ってもらっている。持ち込み自由、散らかし自由で使っているが、比較的整理がされて、清潔に使われている様子がわかる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自立と危険は紙一重だが、何かあれば常にケース検討し今年は手すりの設置を追加した。予測できる事故には十分に気をつけながら環境作りに努めている。		